

川野里子選

門を出てふと振り返るわが実家ムンクのへ叫びのごとくぐにやりと（桑名市）田口 道子
 太陽のくしゃみひとつで滅ぶ日にまたまたテ
 イッシュを配るバイトへ（東京都）石本 文八
 フラダンス習ひはじめし妻が居て風に揺れを
 り洗濯物が（袖ヶ浦市）一尾 弘志
 鳥かこの小鳥となって空見てる足場に家をと
 りかこまれて（つくば市）橋本美知子
 ゆっくりと皆が狂っていく職場圧力鍋の肉じ
 やがを捌う（平塚市）小松百合華
 朝礼で「何か」と問われ女たち首振る男系男
 子の国に（久留米市）塚本 恭子
 五千勝を讃えられたる武騎手はその何倍も馬
 と駆けてる（鎌ヶ谷市）都丸 浩美
 右アメリカ左ロシアへためらいで水分かれゆ
 く最上塚田（仙台市）沼沢 修
 カラカランふと振り向けば子がひとり静けき
 団地に熊鈴ひびく（仙台市）佐藤 譲
 お湯ってね本当は水なんだよと幼は発見得意
 げに言う（柏市）池田 優子

【評】一首目、実家には感情が詰まり叫び出しそうに見える。二首目、太陽フレアか。終末観をどこかに抱えて生きる今だ。五首目、煮詰まり崩れるのは組織も肉じゃがも同じ。六首目、意見を言わない女たちの背後に男系の幻想が聳える。

佐佐木幸綱選

傷負ひし兵士のやうに薄暗き標本室に継ぎ接ぎの土器（札幌市）伊藤 哲
 ありがとう朝顔市のお兄さん望み通りの空色
 でした（千葉市）高橋 好美
 つばくらめ子らと一緒に出入りする珠算教室
 の低き天井（太田市）川野 公子
 つまらない物と差し出す手土産が昭和のドラ
 マの中に生きおり（安中市）岡本千恵子
 「若い頃、かつこよかったんですね」と社内
 報を見た部下次々に（川崎市）和泉 明宏
 河童橋も宿もベンチもリニョール穂高の峰
 は母と見たまま（東京都）伊藤恵津子
 家ひとつ解体されて青空の領分増えて梅雨は
 明けゆく（柏市）佐藤 和裕
 のら犬も見たことのない子どもを振り向き
 もせずゆくハクビシン（東京都）尾関 友詩
 マッチングアプリなどなきあの時代素敵な出
 会いは「ナンパ」とされた（戸田市）蜂巣 幸彦
 駅前の昭和をすべて消し去ってわれを見下ろ
 すタワーマンション（川崎市）後藤 文彰

【評】第一首、「傷負ひし兵士のやうに」という比喻に注目、展示された土器をうたって秀逸。第二首、まだ苗の時代に、空色の花をと注文したのだろう。「お兄さん」という語が利いている。第三首、教室内にツバメの巣があるのだ。